



# WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

2011~2012年度  
国際ロータリーのテーマ  
こころの中を見つめよう  
博愛を広げるために  
2011~2012年度  
RI会長 カルヤン・ハネルジー

創会幹事 立 1980年(昭和55年)1月10日  
長 高須 洋志  
事 馬場 将嘉  
クラブ広報委員長 関谷 俊征  
例会日 毎週木曜日 PM12:30~  
会場 ヒルトン名古屋  
事務局 460-0008  
名古屋市中区栄1丁目3-3  
ヒルトン名古屋910号  
TEL: 052-211-3803  
FAX: 052-211-2623  
E-MAIL: 2760\_nagoya@mizuho-rc.jp  
URL: http://www.mizuho-rc.jp/

## 第1541回例会

~識字率向上月間~  
クラブテーマ:「熱田の杜・友愛・気品」

2012年3月1日(木) 晴 第31回

司 会: 湯澤信雄会場委員  
斉 唱: 「君が代」「奉仕の理想」  
ゲ ス ト: 楽怡さん(米山奨学生)

### 会長挨拶

高須洋志会長

2月25日(土)~26日(日)に岡崎市『愛知県青年の家』にてRYLAセミナーが開催され、天野新世代奉仕委員長と私で参加してきました。RYLA(Rotary Youth Leadership Awards)とは、ロータリーが行っている1泊以上の研修を基本とした青少年のためのリーダー育成プログラムです。会場でお会いした当クラブバスト会長の松井さんは10年程前にRYLA実行委員長を務めていたので、このセミナーに愛着があるのだと思います。以前、ホテルの飼育を行った時も、松井さんは夜でも熱田神宮に通われており、特別な想いをお持ちなのだと感じてます。RYLAセミナーの担当委員の方は参加する青少年の送り迎えだけでなく、セミナーに参加する事で、青少年が何を知り、どのようにリーダーシップが育っていくのかを実感できると思います。



今年はチベットの女性声楽家の基本講演がありました。彼女はチベットの悪い教育環境の中で努力し、四川の音楽大学で声楽を学んだ後、四川で講師をしていた時に知り合った日本人男性と結婚し、現在は日本で暮らしています。講演の中で「何もないチベットで育った自分から見ると日本は天国のようなのに、現在の日本の青少年達は『満ち足りている』という実感を持っていない。」と話していました。「毎日食事ができ、乾いた布団で眠れるだけでも幸せな事で、自分が恵まれた環境で育っている事を認識して欲しい。そして、厳しい生活から抜け出し、現在を築けたのは努力したお陰であり、それによって自分自身の将来をつかめる。」と仰っていました。「人は人を裏切る。国家も時に人を裏切る。しかし努力は人を裏切らない。」という言葉があります。確かに努力しても仕方がない事は起こりますが、努力も何もしない人間には将来は開かれぬというお話でした。

その後は6つのグループに分かれ、講演についてセッション(討議)し、翌日にその結果を発表します。発表の仕方に特徴があり、演劇風とも言えるパフォーマンスの能力が高く、感動を覚えます。頭が柔らかく、情報に流されやすいという危険性はあるものの、外からの情報を素直に受け取れる面があります。今の若者を理解する機会はなかなかないので、是非出席し、彼らの物事の受け止め方や表現方法を実感して頂きたいと思います。

若者に対して義務感だけで付き合っても、誠意は伝わらず、相手も変わりません。相手を理解することで愛情が湧いてくると言います。出席する行事には始めから終わりまで参加して下さい。また、この地区ではサインメーキャップが認められています。どうして

も都合が合わない場合を除き、実際にその例会に参加して下さいます。それにより皆さんのロータリー活動に対する理解が深まると思います。若い世代の方々には期待していますので、よろしくお願ひします。

### 委嘱状伝達



2012~2013年度地区ロータリー未来副委員長として出向される近藤雄亮さんに高須会長より委嘱状が伝達されました。

### ポール・ハリス・フェロー表彰



ポール・ハリス・フェローとなりました松波恒彦さん(2回目)に高須会長より襟ピンが贈呈されました。

### ニコボックス

山本英雄ニコボックス委員

- ・2月18日は小生の誕生日でした。 宗宮 信賢さん
- ・高村さん、先日は歓迎会ありがとうございました。内田さん、伊勢ツアーありがとうございました。 山本 英雄さん
- ・高木さんにお世話になりました。 鈴木 淑久さん
- ・高村先輩、先日はありがとうございました。 湯澤 勇生さん
- ・3月になり、暖かくなりました。高村先輩、先週はお世話になり、ありがとうございました。 湯澤 信雄さん
- ・昨日の日本VSウズベキスタン戦、残念でした。 山口 哲司さん
- ・先日は高村さんにお世話になりました。 鈴木 健司さん
- ・今晚18時より『春日良平さんを偲ぶ会』です。春日さんを思って、皆さんお集まり下さい。 松波 恒彦さん
- ・高村さん、鈴木圓三さん、伊藤豪さん、先日は大変お世話になりました。 市岡 正蔵さん
- ・ニコボックス委員の皆様、毎週ご苦勞様。山本さん、早くクラブに馴染んで下さい。 高須 洋志さん

### 3月お誕生日おめでとう

岩本 成郎さん 伊藤 豪さん 大川 嘉成さん  
西沢 功晋さん

## 楽怡さん最後の挨拶

本日は私が米山奨学生として参加する最後の例会となりました。皆様のご援助のお陰で学業も順調に進められました。いつも温かく見守って頂き、本当に感謝いたします。皆様のご愛情とご期待にお応えできるよう、日々の努力を惜しまず、自分の人生をもっと広げていきたいと思っております。この2年間で築かれた皆様との絆をこれからも大切にしていきたいです。瑞穂RCを通じてメッセージを送りますので、楽しみにして下さい。ご縁がございましたら、また皆様とお会いしたいです。2年間本当にありがとうございました。



## 山本英雄出席委員

## 出席報告

会員68名 出席53名 (出席計算人数50名)

出席率 91.4%

2月21日は補填により 94.5%

## 幹事報告

## 馬場将嘉幹事

- ・本日13:40よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて第9回理事会を行います。
- ・次週3月8日(木)18:00よりヒルトン名古屋4階「桜の間」にて第1542回例会及びI.D.Mを開催いたします。

## 卓話

オイスカ中部日本研修センター所長 新屋敷道保さん

## NGO活動の50年の歩みと今後



まずは私が所属する『オイスカ』がどのような活動をしているのかを紹介させていただきます。1961年10月6日に創立し、今年で51年目になります。昨年は50周年記念大会を開催し、天皇皇后両陛下ならび野田総理にも臨席頂きました。オイスカはアジア・太平洋を中心に、農村開発を活動の中心としています。海外研修生を受け入れ、人材育成を行っており、愛知県には豊田市に中部日本研修センターがございます。その他、大阪・四国・福岡などに研修センターがあり、全世界から研修生を受け入れています。こうした活動で、日本と彼らの国々との交流・絆ができていくと思います。日本から技術者を派遣し、農業を中心とした農村開発を各国で行っております。最近特に力を入れているのは海外での植林活動です。湿地ではマングローブの植林、海では珊瑚礁の移植を積極的に行っています。各国で様々なハプニングが起こり、よくここまでこられたと思います。一番最初に行った活動は、長野県のリンゴの専門家がインド・カシミールへ赴き、リンゴ栽培の指導をすることでした。インドには剪定技術がなく、剪定を行った事が裁判問題にまで発展しました。しかしリンゴが実る秋まで裁判を待って貰い、実際に実った立派なリンゴに現地の方は驚き、技術を認めて貰うことができました。パキスタンでは塩が出る田での稲作ですが、刑務所の受刑者達に指導し、成功することができました。伊藤さんという技術者に訊くと、塩の比重は重いので、一年中田に水を張っておくと塩が沈み、上の方は塩気がなくなるので、そこにお米を植えるとちゃんと収穫できるのだと仰っていました。現在でも継続してカシミールではリンゴ栽培、パキスタンでは稲作が行われています。

私は40年以上、国際協力の仕事を行って参りました。これほど長く係わるとは思っていませんでしたが、いずれこうした活動が求められる時代が必ず来ると信じ、今日まで来ました。これまで22ヶ国で業務を行い、国によって様々な課題に取り組んできたことは、振り返れば楽しかったと思います。2002年5月、東ティモールという国の独立後すぐに赴き、2年間の活動をしました。まず研修センターを立ち上げ、政府から与えられた10ヘクタールのジャングルのような土地を8ヶ月掛かって開墾しました。日中の気温

がほぼ1年中35~38℃の中での開墾作業は、当時60歳だった私には大変でした。ある日、物が全て歪んで見え、歩けない状態になり、ベットに横になっていると、偶然1~2ヶ月に1度訪ねてくる現地の方が来て、病院に連れて行ってくださいました。「重度脳性マラリア」という助かる人はまずいないと言われる病気に罹っており、今生きているのが不思議なくらいです。ある日は村人に取り囲まれ、お祓いをしないで開墾するから村に病気が流行るのだと詰め寄られました。東ティモールは24年間インドネシアからの独立問題で争い、4人に1人が殺されている状況だったので、研修センターで働いていた50人ほどの人の中で、家族に犠牲者がいない人は1人もいませんでした。価値観の違う危険な地域で活動するには村人と仲良くすることが大切です。1~2週間で働く人を交代させ、多くの村人が働ける環境を作ります。10年後に再び訪れると村はかなり変わっていましたが、私が育てた83名の研修生の内70%の人は教えた農業を今でも行っていました。先月訪れた時、OBが支援ではなく自分達で研修センターを立ち上げたのを見て、人づくりの大切さを感じました。現在、オイスカでは東日本大震災の復興として、海岸線に10年かけて65万本の黒松を植える事業に取り組んでいます。愛知県からもプロジェクトのボランティアに参加されていますので、皆様も機会がございましたら、一緒に黒松を植えて頂けたら幸いです。

NPOは「営利を目的とせず、国内などその地域にある問題に対し、活動する団体」、NGOは「海外を中心に活動する団体」と定義されています。国連で政府関係者と分けるためにNGO(非政府組織)という言葉を使っていたのですが、今は一般的に民間団体に使われるようになりました。日本におけるNGOの歴史は1960年代に始まりました。オイスカは1961年創立なので、日本のNGOの中でも古株です。日本のNGOが最も活発に増えたのは、カンボジア難民問題に対して援助しようとした1970年代です。1980年代には外国のNGOが日本に来るようになり、NGOのネットワークを作ろうと東京にJANIC(日本NGOボランティアセンター)、関西NGOセンター、名古屋NGOセンターができました。1980年代は国内外の団体が錯綜し、1990~2000年代になり、落ち着いて活動できるようになりました。かつての日本政府は16の省で国際協力を行っていましたが、省ごとにバラバラな活動するのは非効率的で無駄が多いので、国際協力省を作って貰おうと各省庁に働きかけましたが、残念ながら実現はされませんでした。しかし1987年、政府は10月6日を『国際協力の日』と定め、毎年、日比谷公園に政府関係者・各国大使・JICA(国際協力機構)・企業・NGOがブースを構え、広報活動を行う行事が行われています。10月6日を『国際協力の日』と定めたのは、日本が発展途上国から先進国に仲間入りした日だからです。1954年10月6日、スリランカ・コロomboで行われた『コロombo会議』で、戦後復興のために発展途上国への技術援助を行う『コロomboプラン』に日本が加盟しました。日本は58年前はまだ発展途上国だったからこそ、発展途中の国々へ協力していくことが今の日本の役割なのではないかと思っております。

今後の取り組みとして大切な事は人づくりだと思います。多くの人材を育てていく事が、日本と海外との架け橋になり、人との絆、海外との絆になるはずですが、研修生の里親制度もスタートさせますので、瑞穂RCでもご関心を持って頂ければ幸いです。ありがとうございました。

## 例会のご案内

### ■今週の行事 3月8日(木) 第1542回例会及びI.D.M.

場 所：ヒルトン名古屋4階「桜の間」  
時 間：18:00~20:00

### ■3月15日(木) R規定により休会

### ■次々週行事 3月22日(木) RACとの合同例会

場 所：ヒルトン名古屋28階「One O Five」  
時 間：19:00~20:30